

さかづき づか こ ふん
盃 塚 古 墳

岡(おか)地区には、八代町の史跡(しせき)に指定されている盃塚と呼ばれる古墳があります。

盃塚古墳は、5世紀(せいき=今からおよそ1500から1600年前)ごろに造られた円墳(えんぷん)で、真上から見ると丸い形をしています。

この古墳は発掘調査(はくつちょうさ)が行われていて、土を高く盛ったところの直径は約23mで、周(まわり)には幅が1.8mのほりがあることがわかっています。豪族の遺体(いたい)を葬(ほうむ)った部屋は、完全に壊(こわ)されていたのではっきりしたことは分かりませんが、石がたくさん見つかったことから、竪穴式石室(たてあなしきせきしつ=古墳の頂上に穴をほって、石を組み合わせてつくった部屋をうめたもの)ではないかと考えられています。また、竪穴式石室の中に納(おさ)められていたと思われる鉄刀(てっとう=鉄のかたな)・鉄鏃(てつぞく=鉄のやじり)なども見つかっています。

現在、古墳は造られた時と同じ大きさに土が盛り直されています。ちょうど、お酒を飲む時に使う盃を伏(ふ)せたような形をしているので、盃塚と呼ばれるようになったのかもしれませんが。



きつねづか こ ふん
狐塚古墳

南(みなみ)地区には町の史跡(しせき)に指定されている、狐塚と呼ばれる古墳があります。

古墳とは、土を高く盛(も)って造った古代の豪族(ごうぞく)のお墓のことです。狐塚古墳は今からおよそ1500年前に造られた古墳です。真上から見ると丸い形の盛り土に、短く四角い形の盛り土を付けた帆立貝式古墳(ほたてがいしきこふん)で、全長は約26m、高さは前方部(ぜんぽうぶ=四角い形に土を盛ってある方)で約3m、後円部(こうえんぶ=丸い形に土を盛ってある方)で約6mあります。

今のところ、豪族の遺体(いたい)を納めた穴が古墳のどこにあるのかわかっていません。しかし、昭和の初め頃、前方部に相撲(すもう)の土俵(どひょう)を造ったときに、鉄剣(てっけん=鉄のけん)などがみついていることから、前方部にあったと考えることができます。

古墳の周りの畑からは、筒の形をした埴輪(はにわ)のかけらがみついていますので、古墳が造られた時には、表面に埴輪が並べられていたと考えられます。

すんぐりづか こふん 団栗塚古墳

北(きた)地区には、町の史跡(しせき)に指定されている団栗塚と呼ばれる古墳があります。

古墳とは、土を高く盛(も)って造った古代の豪族(ごうぞく)のお墓のことで、団栗塚古墳は今からおよそ1500年前に造られました。真上から見ると丸い形と四角い形を付けたような前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)であったといわれていますが、明治22年に行われた道路工事(どうろこうじ)によって前方部(ぜんぽうぶ=四角い形に土を盛ってある方)が削られてしまい、現在では直径約18mの後円部(こうえんぶ=丸い形に土を盛っている方)が残っているだけです。



この古墳の豪族の遺体(いたい)を納めた穴は、後円部の頂上にあって東西に2つ並んでいてとても珍しく、これらの部屋の中からは、豪族の遺体といっしょに納めた銅鏡(どうきょう=銅のかがみ)・刀(かたな)・鉄鍬(てつぞく=鉄のやじり)などが見つかっています。

八代町の史跡

りゅうづか こふん 竜塚古墳

米倉(よねぐら)地区には、町の史跡(しせき)に指定されている竜塚と呼ばれる古墳(こふん)があります。

古墳とは、土を高く盛(も)って造った古代の豪族(ごうぞく)のお墓のことです。竜塚古墳は、方墳(ほうふん)という真上から見ると正方形の古墳で、土を高く盛ったところの一辺の長さは約52m、高さは約7.5mあります。また、土を盛ったところの周(まわ)りの畑は、少し低くなっていたり、石垣(いしがき)によって区切られたりしていることから、幅が約12mのほりがあると考えられます。

この古墳は、まだ発掘調査(はくくつちょうさ)が行われたことがないので、どこに豪族の遺体(いたい)を葬(ほうむ)った部屋があるか、いつ造られたのかなど、詳(くわ)しいことは分かっていません。しかし、山梨県内で方墳と分かっているのはとても少ないうえ、土を高く盛って造られたところが残されているのはこの古墳だけで、山梨県の歴史を考える上で無くてはならない古墳といえます。

皆さんも、一度この珍(めづら)しい古墳を見にきてみませんか。ただ、周(まわ)りは農家の大切な畑です。作物を傷つけたり踏んだりしないよう気を付けてくださいね。

